

行政視察報告書

平成 30 年 7 月 13 日

視察委員会名	教育民生委員会		
報告書作成者	副委員長 森 美和子		
出席者氏名	委員長	副委員長	
	尾崎 邦洋	森 美和子	
	委員 前田 稔	中村 嘉孝	
	福沢 美由紀	高島 真	
欠席者氏名	なし		
所管課職員氏名	教育部長 草川 吉次 教育委員会事務局参事 (図書館建設担当) 亀山 隆	随行職員氏名	議会事務局 渡邊 靖文 大川 真梨子

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
6 月 27 日	愛知県安城市	・図書館の機能、運営及び管理等について

●愛知県安城市

◆現状と取り組み

アンフォーレは、厚生病院の郊外移転に伴い、中心市街地の再整備を目的に、昨年度よりオープンした図書情報館や願いごと広場、公園、商業施設などからなる複合施設である。

公共施設であるアンフォーレ、広場及び公園は PFI 方式で建設され、併設している民間収益施設である立体駐車場や商業施設は定期借地方式で建設されている。

公共施設部分は 15 年間契約で総事業費 62 億 5,320 万円、地下 1 階から地上 5 階まであり、延床面積は 9,193 m²である。

1 階は総合案内や証明・旅券窓口センター、カフェ、多目的室があり、2 階から 4 階までが図書情報館となっている。

事前予約により 24 時間対応の予約本受け取り機（費用 2,700 万円）が設置しており、返却は基本的に返却箱へ入れる。また本の貸出や学習室の予約など徹底して ICT を活用しているため、職員が図書業務に専念できる環境にある。

スタッフ数は、正規職員 16 名（うち半数が司書資格あり）、臨時職員 76 名（うち半数が司書資格あり）であるが、開館時間を平日（休館日である火曜日を除く）は午前 9 時から午後 8 時まで、土日祝日は午前 9 時から午後 6 時までと延長したため、臨時職員数を増加させた。

一部エリアを除き、会話やアルコールを含む飲食が自由となっている他、利用者に関しての要件を撤廃し、県内外問わず誰でも利用可能など、柔軟な点が多い。

2 階は、新聞・雑誌コーナー、予約本コーナーのほか、こども図書やお話コーナー（でんでんむしのへや）、NPO による子育て支援のほっとスペースもあり、子育て世代に喜ばれている。

3 階には、独自の「ら BOOKs」コーナー（2,000 冊）を設け、話題書、コミックス、歴代ベストセラーなど、読むきっかけづくりになるような演出がされている。

また健康支援室、ビジネス支援センターには商工課の職員を配置し、専門家にも委託して相談業務などを行っている。

4 階には予約専用の個人学習室が多く配置され、休日は満室になることもある。閉架図書もオープンになっているほか、借りた本の履歴が読書通帳という形で印字できる機械やブックシャワーも設置してある。

アンフォーレ以外にも、市内 9 か所の公民館にそれぞれ図書室が設置され、1 館あたり約 2 万冊の図書がある。また、シルバー人材センターに委託し、毎日 9 か所の公民館に図書の配送を行っているほか、学校図書館とも連携しており、週 2 日学校に図書の配送をしている。シルバー人材センターとの委託料は、公民館が年間 520 万円、学校図書館は 280 万円である。

◆所感

まず、病院の移転に伴う土地の利用について市民に問い、図書館を中心とした複合施設を市民とともに作り上げてこられた経過が素晴らしく、図書館の周りにはスーパーやカルチャーセンター、公園、24 時間営業の駐車場も併設されており、若者も含め、人が集いやすい環境が整っている。

アンフォーレは、計画の段階から十分検討を重ねて市民や企業の協力を得て出来た施設であるが、亀山市においても図書館整備に向けた検討が進められる中、現図書館を良くするためにも、経験豊富な図書館司書の採用をすべきであると感じた。

この図書館の特徴のひとつは、ICT化が進んでいることである。自動貸し出しや予約本受け取り、読書通帳記帳、学習室などの利用予約などもICTで行える。スタッフが行うことによるメリットもあると思うが、ここにかかる人手や時間をレファレンスなどの、図書館サービスに充てることができるのは有効だと感じた。

また、ABC安城ビジネスコンシェルジュも特徴的で、今求められているサービスである。カウンターの奥の一室には商工課の職員などが、相談対応にあたっているところも良いと思った。

その他の特徴として、一部エリアを除き、会話やアルコールを含む飲食が自由となっていることや、利用者に関する要件を撤廃し、県内外問わず誰でも利用可能なこと、閉館時間、閉館日などの貸し出し、返却が出来ることなど、柔軟な点が多いと感じた。さらに、借りた本の履歴を通帳のように記録出来る読書通帳はもっと本を借りたい気持ちになり、読書推進に取り組む市の姿勢に関心した。

また、地元の童話作家、新見南吉のコーナーが児童書コーナーと畳のスペースに設けられており地元の特色が出ていて良いと思った。

亀山市では、新図書館建設に向け整備基本計画が策定された。全国各地で複合的な要素を持った公共図書館が増えてきている中で、亀山市も方向性は同じである。少子高齢化が進み、いわゆる文化教養型の図書館から、地域解決型の図書館へ特にレファレンス機能の充実が求められている。アンフォーレのビジネス支援や子育て支援もその一環だと考えるが、当然、亀山市でもそういった機能の充実を求められている。一方で、いつでも本に親しめる環境整備として、安城市の公民館図書室の図書の充実や毎日の図書配送は外せない。規模は違うが何を大切にするか参考になることの多い視察であった。財政的な違いがあるにせよ、今後ますます高齢化が進む亀山市において、身近な読書環境の整備は、新図書館建設と合わせて考えていく必要があると思った。



アンフォーレにて